

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471500298		
法人名	株式会社 東北医療福祉システムズ		
事業所名	グループホームやすらぎ苑古川	ユニット名	りんどう
所在地	宮城県大崎市古川小野字一ノ坪43-101		
自己評価作成日	令和 3年 9月 9日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 3年 10月 19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員の心のこもった手作りの食事を提供している。
当苑は自然に囲まれた場所にあり、とても静かでゆったりとした生活を送っている。できる限り自立した生活が送れるよう支援に努めている。また、協力医療機関として市内の一般財団法人佐藤病院の医師、看護師の方々の協力のもと健康管理などもスムーズに行っている。看取り時も病院、ご家族とも密に連携することができていて職員も慌てず落ち着いて支援することができている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道4号線を北上し、羽黒山公園より2つ目の信号を超えた所に「グループホームやすらぎ苑古川」の看板があり、小道を東に150メートルほど入った所にある。小高い丘の広い敷地は、田畑に囲まれて南向きにユニットが2つ並んでいる。中庭には栗や柿の木があり、入居者は秋の収穫を楽しみにしている。近隣からもらった野菜や入居者が収穫した山菜が、食卓を家庭的な雰囲気になっている。「生き甲斐づくり」を運営理念に掲げ、入居者の出来ることを發揮して貰う取り組みをしている。職員と入居者のコミュニケーションが良く、イベント等は入居者の意見を尊重し、一緒に行動し楽しい時間を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームやすらぎ苑古川)「ユニット名 りんどう 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員の目にとまる場所に掲示し、常に確認できるようにし実践に繋げている。また年度毎にユニット理念を構築し実践に努めている。	ユニット理念は「楽しく笑顔で過ごせるよう支援します」と、年度初めの職員会議で決めた。入居者に笑顔で寄り添い、会話を多くし、表情や動作を見逃さないケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染対策のため地区、苑内の行事の参加を控えている。ご近所の方々とは挨拶を交わしたりは出来ている。	町内会に加入し、回覧板で町内清掃活動等の情報を得ている。近隣住民から、野菜の差し入れがあったり、散歩中挨拶をしたり交流をしている。行事毎に来訪していた保育園児は、コロナ禍の為に中止している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症相談窓口として登録している。運営推進会議などで包括の職員や会議のメンバーさん等の情報交換の場にもなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議をコロナ蔓延防止のためしりょうのみでの開催しを行っている。取り組みなどを報告している。	偶数月に書面会議を行っている。入居者の状況や行事報告である。包括支援センターへ送付し、区長、民生委員、駐在所、衛生組合長には、手渡しをして意見を聞いている。コロナ禍の生活に関する感想が多い。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡を密に取り、協力関係を気づくように努めている。	高齢介護課に、運営推進会議の開催について相談をした。市からコロナ予防対策交付金が支給され、感染防止用品を購入した。生活保護者の家族とスムーズに連絡を取れるよう社会福祉事務所と連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回、3苑合同で身体拘束廃止委員会をリモートにて開催している。身体拘束についての勉強会も苑内で行い、理解を深め、身体拘束のないケアに努めている。	離設する入居者の安全を図るため玄関のセンサーを活用している。勉強会で離設する方の要因を探り、対応策として会話で心を落ち着かせる。天気が良ければ、散歩に誘う等の意見が出た。職員間で、共有し身体拘束の無いケアに努めている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い理解、防止に努めている。	日頃の声掛けから、「ちょっと待って」などがピーチロックに当たるか意識して対応している。声掛けに違和感がある時は、職員がアドバイスしあう事で、より良いケアの実践に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会をなかなか持てていないが、理解を深められるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様やご家族様が安心できる説明を行い、質問等を受け納得して頂いた上で、契約の取り直しを行っている。また、制度改正がある場合も再度説明を行なっている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置しており利用者様、ご家族様からの意見要望を把握できるよう努めている。また、その都度意見や要望に対し出来る範囲で運営に反映させている。	家族からの要望や意見は、通院時や面会時に家族との電話の時に聞いている。「転倒に気を付けて欲しい」や「身体を動かして欲しい」との要望があり、見守りを重視しホーム内での歩行訓練を行った。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンス等で情報交換等を行っている。また、意見や提案を口頭もしくは文書にて受け付け改善や運営に反映している。	職員から、聴力障害者とコミュニケーションを取る為に、ジェスチャーを取り入れる提案があった。職員間でジェスチャーを共有し、より良いケアに結びついた。資格取得の受講料負担、シフト調整等の支援がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者と職員は常にコミュニケーションの充実を図り自由闊達な意見交換が行える環境にあり、意見に耳を傾けて頂き家族の状況にも配慮して頂き働きやすい。また、職員本人の状況に合わせて勤務表を作成している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得を薦めており上司は折に触れ指導している。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交換研修の様な形で法人内の施設での研修を行い相互間の意見交換等を通じてのケアの質の向上に取り組んでいる。また、地域の包括等と連絡を取り合っている。	法人内で、リモート研修会を行っている。法人のホーム間での職員応援体制があり協力しあっている。協力医療機関の医師や看護師、薬剤師とは常に連絡を取り、入居者の健康管理に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入苑前の実態調査を実施し情報収集を細かく行う事で本人のニーズにできるだけ応えられるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入苑前の苑の見学時など事前に不安や要望を聞き、よりよいケアができる様取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	バックグラウンドを把握したり、ご本人様やご家族様の意向をしっかりと受け止めケアを実施できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で利用者様の個性を尊重しながら、生活の中で取り組める家事などを職員と一緒にやっている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の気持ちに寄り添いご意向を聞きながらご本人様との良好な関係を保てるよう努めている。毎月利用者様の様子を手紙で報告している。また、ご家族様に協力して頂ける部分はお願している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	随時面会、外出、外泊等の機会を持ち関係が途切れないよう支援している。	家族の支援で、昔馴染みの理容室へ行っている方がいる。コロナ感染防止でホーム内での面会が困難になっている為、リモート面会や電話で会話をすることで、家族との繋がりを大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の性格や相性を考慮し席などにも工夫を行っている。一緒にソファやテーブルを囲み談笑されている。利用者同士で関わり合いを持つのが難しい利用者もいるため、その際は職員が間に入るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談に応じる事もある。また、また医療連携をしている病院に入院されている時などには面会に行き様子を伺ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動や言動などを常に観察しコミュニケーションを図ることで思いや希望を把握できるように努めている。	入居時に家族から生活歴や趣味、嗜好品等の聞き取りをしている。毎食さつま芋やヨーグルトを食べる方には、これまでの食習慣を継続して、入居者の希望に添った快適な生活が送れるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人もしくはご家族、以前の担当介護支援専門員より情報収集し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや記録、日誌を活用し職員全員が現状の把握に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや申し送りなどで交わされる意見や提案を検討し現状に即したケアが提供できるように努めている。	職員から実践状況の報告を聞き、本人や家族の思い、医師の意見を取り入れて、本人に合ったプランを作成している。入居者から「出来る事はやらせて欲しい」の要望に、おしぼりや新聞たたみ等をプランに入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを設け共有している。個人記録にケアプランの内容を明記し確認をしながら的確なケア実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変化する状況やニーズに合ったケアを実践している。既存のサービスに捉われない臨機応変なサービスの提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々と交流し安全で豊かな暮らしを楽しむことができる様支援出来るようにしたいと思うが、コロナ対策のため苑街周辺の散歩が多い。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	佐藤病院と医療連携を結んでおり適切な医療を受けられるよう24時間体制で支援している。また、協力医療機関以外の通院等もあるがご家族様の協力を頂きながら受診を行えるよう支援している。	ほとんどの方は、協力医の月1回の訪問診療を利用している。入居前からの、かかりつけ医利用が1名いる。訪問看護師が健康管理のために毎週来ている。専門医への通院は、家族が対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護や24時間体制で利用者様の状態を伝えその都度指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院14日間での退苑と謳っているが期間内に退院ができるように情報交換を行っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様や病院と情報を交換し職員間で方針を共有している。ターミナルケアに入る前には医師、看護師、ご家族、当苑とで話し合いを行いながら取り組んでいる。	「重度化(ターミナルケア)に関する指針」の文書があり、入居時に説明をし同意を得ている。体調の変化に応じて医師や家族、職員が話し合い方針を定めている。職員は看取り研修により、「しっかり、慌てない、関係者に連絡する」等の教育を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には医療機関に連絡をし指示を仰いでいる。応急手当の内部研修も行いAEDの使い方を確認している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定防災訓練を定期的に行っている。業者さんにも依頼し消化器の使用方法などの説明や訓練も行っている。	防災時対応マニュアルがある。夜間想定を含め年2回の訓練を実施した。設備の点検も行われ、業者から消火器の使い方の訓練を受けた。備蓄品は、3日程度のレトルト食品やご飯、水、衛生用品等を用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格を尊重した対応や言葉掛けを行っている。難聴の方にはジェスチャーも交えながら対応している。	入居者の呼び方は、家族や本人と相談して決めている。教員だった入居者には先生と呼び尊厳に配慮している。行事の写真撮影に関しては、家族や本人の了解を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思うままの生活ができるように確認を行いながら自己決定ができるよう見守りながら支援している。言葉にできない方には「はい・いいえ」で決定できるよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、談話や歌、読み書き(書道)それぞれ好む事ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時ご本人様に衣類を選んでもらう様にしている。(特に女性の利用者様が多くの職員は気を使う事も多々いる。産毛剃りや整髪等要望に合わせた支援を心掛けている。)		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	後片付けなど見守りながら行っている。食事が楽しめるよう支援し、好き嫌いや禁止食材を職員が理解し情報共有を行い代替で対応している。	職員が献立を考え、近所からの差し入れ野菜等を取り入れている。嚥下状況に合わせて、刻み食やとろみ食、盛り付けに配慮している。外でバーベキューをしたり、敬老会の行事食として、寿司を食したりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿・腎臓食など、医師や看護師と相談し摂取量、水分量など一人ひとりに合わせた食事形態にし支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けを行い口腔ケアを行っている。口腔ケアが上手にできず不十分な場合は仕上げの介助を行っている。夜間は義歯洗浄のお手伝いも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録などを通して一人ひとりのサインやパターンを把握しトイレでの排泄ができるよう誘導や声掛けを行っている。	排泄チェック表や動きを見て、個別に声掛け誘導をしている。難聴の入居者には、ジェスチャーを交えながら誘導している。排便コントロールは、入居者の体調に合わせて管理している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼るのではなく、こまめな水分補給や牛乳、ヨーグルトなどの提供、体を動かす機会を設け予防に努めている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	一人ひとりの希望やタイミング、湯加減などを考慮し支援している。	週2～3回の入浴である。個々の肌に合ったシャンプーやボディソープを使用している。入浴中は、話をしたり、歌をうたったり、ゆっくり入浴できるよう支援し、入浴拒否の方には、曜日や時間帯を変更して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調やご本人様の意向に沿って休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を職員がいつでも確認できるようにしている。薬の量が増減した場合は症状の変化に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カンファレンスなどで情報交換や協議を行い一人ひとりに合った日々の家事手伝いや、衣類整理、リネン交換など見守りを行いながら支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ蔓延防止のため外出は控えているが、散歩やドライブ・買物の希望がなどに合わせできる限り支援している。	敷地内を散歩したり、山菜取りや栗拾い、柿の収穫を楽しんでいる。スーパーに買い物へ行く途中の、風景を見ながら会話が弾んでいる。コロナが落ち着いてきたの入居者と一緒に、紅葉狩りドライブを計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力・理解を頂き所持されている方もいますがほとんどの利用者様は苑で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じ支援している。また、リモートにて顔を見ながら会話を出来るよう支援している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った壁面装飾や季節の花などを取り入れながら快適に過ごしていただけるよう努めている。表示等にて場所が分かる様工夫している。	フロアの掃き出し窓からは、季節ごとの風景が楽しめ、日向ぼっここの場所になっている。畳敷の小上がりは、横になったり寛げる場所である。壁にイベントの写真やぬり絵の作品が飾ってある。入居者が集まりテレビや会話により、楽しい時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ある程度所定の位置は決まっているが談話や談笑、居室にてテレビを観たり、休まれたりと思いきいに過ごされるよう配慮している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱を招かない程度に自宅で使用されていた「なじみ」の品物をお部屋に置いて頂けるようご家族の協力をいただいている。自宅での生活の延長として心地よく過ごしていただけるよう努めている。	居室にはエアコンとクローゼットが備え付けで、全入居者がリースベッドを利用している。テレビや位牌等を持ち込んでいる方もいるが、持ち込み過ぎて不安にならないよう、配慮している。居室のドアには、大きな字で書かれた表札がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレの場所に表記を行い、居室扉には利用者様の名前を表記し、ご自分でできることが増えたり、または場所がわかるよう見守りを行いながら支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471500298		
法人名	株式会社 東北医療福祉システムズ		
事業所名	グループホームやすらぎ苑古川	ユニット名	すずらん
所在地	宮城県大崎市古川小野字一ノ坪43-101		
自己評価作成日	令和 3年 9月 9日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 3年 10月 19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員の心のこもった手作りの食事を提供している。
当苑は自然に囲まれた場所にあり、とても静かでゆったりとした生活を送っている。できる限り自立した生活が送れるよう支援に努めている。また、協力医療機関として市内の一般財団法人佐藤病院の医師、看護師の方々の協力のもと健康管理などもスムーズに行っている。看取り時も病院、ご家族とも密に連携することができていて職員も慌てず落ち着いて支援することができている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道4号線を北上し、羽黒山公園より2つ目の信号を超えた所に「グループホームやすらぎ苑古川」の看板があり、小道を東に150メートルほど入った所にある。小高い丘の広い敷地は、田畑に囲まれて南向きにユニットが2つ並んでいる。中庭には栗や柿の木があり、入居者は秋の収穫を楽しみにしている。近隣からもらった野菜や入居者が収穫した山菜が、食卓を家庭的な雰囲気になっている。「生き甲斐づくり」を運営理念に掲げ、入居者の出来ることを發揮して貰う取り組みをしている。職員と入居者のコミュニケーションが良く、イベント等は入居者の意見を尊重し、一緒に行動し楽しい時間を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームやすらぎ苑古川)「ユニット名 すずらん 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員の目にとまる場所に掲示し、常に確認できるようにし実践に繋げている。また年度毎にユニット理念を構築し実践に努めている。	ユニット理念は「楽しく笑顔で過ごせるよう支援します」と、年度初めの職員会議で決めた。入居者に笑顔で寄り添い、会話を多くし、表情や動作を見逃さないケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染対策のため地区、苑内の行事の参加を控えている。ご近所の方々とは挨拶を交わしたりは出来ている。	町内会に加入し、回覧板で町内清掃活動等の情報を得ている。近隣住民から、野菜の差し入れがあったり、散歩中挨拶をしたり交流をしている。行事毎に来訪していた保育園児は、コロナ禍の為に中止している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症相談窓口として登録している。運営推進会議などで包括の職員や会議のメンバーさん等の情報交換の場にもなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議をコロナ蔓延防止のためしりょうのみでの開催を行っている。取り組みなどを報告している。	偶数月に書面会議を行っている。入居者の状況や行事報告である。包括支援センターへ送付し、区長、民生委員、駐在所、衛生組合長には、手渡しをして意見を聞いている。コロナ禍の生活に関する感想が多い。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡を密に取り、協力関係を気づくように努めている。	高齢介護課に、運営推進会議の開催について相談をした。市からコロナ予防対策交付金が支給され、感染防止用品を購入した。生活保護者の家族とスムーズに連絡を取れるよう社会福祉事務所と連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回、3苑合同で身体拘束廃止委員会をリモートにて開催している。身体拘束についての勉強会も苑内で行い、理解を深め、身体拘束のないケアに努めている。	離設する入居者の安全を図るため玄関のセンサーを活用している。勉強会で離設する方の要因を探り、対応策として会話で心を落ち着かせる。天気が良ければ、散歩に誘う等の意見が出た。職員間で、共有し身体拘束の無いケアに努めている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い理解、防止に努めている。	日頃の声掛けから、「ちょっと待って」などがピーチロックに当たるか意識して対応している。声掛けに違和感がある時は、職員がアドバイスしあう事で、より良いケアの実践に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会をなかなか持てていないが、理解を深められるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様やご家族様が安心できる説明を行い、質問等を受け納得して頂いた上での契約の取り交わしを行っている。また、制度改正がある場合も再度説明を行なっている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置しており利用者様、ご家族様からの意見要望を把握できるよう努めている。また、その都度意見や要望に対し出来る範囲で運営に反映させている。	家族からの要望や意見は、通院時や面会時に家族との電話の時に聞いている。「転倒に気を付けて欲しい」や「身体を動かして欲しい」との要望があり、見守りを重視しホーム内での歩行訓練を行った。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンス等で情報交換等を行っている。また、意見や提案を口頭もしくは文書にて受け付け改善や運営に反映している。	職員から、聴力障害者とコミュニケーションを取る為に、ジェスチャーを取り入れる提案があった。職員間でジェスチャーを共有し、より良いケアに結びついた。資格取得の受講料負担、シフト調整等の支援がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者と職員は常にコミュニケーションの充実を図り自由闊達な意見交換が行える環境にあり、意見に耳を傾けて頂き家族の状況にも配慮して頂き働きやすい。また、職員本人の状況に合わせて勤務表を作成している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得を薦めており上司は折に触れ指導している。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交換研修の様な形で法人内の施設での研修を行い相互間の意見交換等を通じてのケアの質の向上に取り組んでいる。また、地域の包括等と連絡を取り合っている。	法人内で、リモート研修会を行っている。法人のホーム間での職員応援体制があり協力しあっている。協力医療機関の医師や看護師、薬剤師とは常に連絡を取り、入居者の健康管理に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入苑前の実態調査を実施し情報収集を細かく行う事で本人のニーズにできるだけ応えられるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入苑前の苑の見学時など事前に不安や要望を聞き、よりよいケアができる様取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	バックグラウンドを把握したり、ご本人様やご家族様の意向をしっかりと受け止めケアを実施できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で利用者様の個性を尊重しながら、生活の中で取り組める家事などを職員と一緒にやっている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の気持ちに寄り添いご意向を聞きながらご本人様との良好な関係を保てるよう努めている。毎月利用者様の様子を手紙で報告している。また、ご家族様に協力して頂ける部分はお願している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	随時面会、外出、外泊等の機会を持ち関係が途切れないよう支援している。	家族の支援で、昔馴染みの理容室へ行っている方がいる。コロナ感染防止でホーム内での面会が困難になっている為、リモート面会や電話で会話をすることで、家族との繋がりを大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の性格や相性を考慮し席などにも工夫を行っている。一緒にソファやテーブルを囲み談笑されている。利用者同士で関わり合いを持つのが難しい利用者もいるため、その際は職員が間に入るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談に応じる事もある。また、また医療連携をしている病院に入院されている時などには面会に行き様子を伺ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動や言動などを常に観察しコミュニケーションを図ることで思いや希望を把握できるように努めている。	入居時に家族から生活歴や趣味、嗜好品等の聞き取りをしている。毎食さつま芋やヨーグルトを食べる方には、これまでの食習慣を継続して、入居者の希望に添った快適な生活が送れるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人もしくはご家族、以前の担当介護支援専門員より情報収集し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや記録、日誌を活用し職員全員が現状の把握に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや申し送りなどで交わされる意見や提案を検討し現状に即したケアが提供できるように努めている。	職員から実践状況の報告を聞き、本人や家族の思い、医師の意見を取り入れて、本人に合ったプランを作成している。入居者から「出来る事はやらせて欲しい」の要望に、おしぼりや新聞たたみ等をプランに入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを設け共有している。個人記録にケアプランの内容を明記し確認をしながら的確なケア実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変化する状況やニーズに合ったケアを実践している。既存のサービスに捉われない臨機応変なサービスの提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々と交流し安全で豊かな暮らしを楽しむことができる様支援出来るようにしたいと思うが、コロナ対策のため苑街周辺の散歩が多い。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	佐藤病院と医療連携を結んでおり適切な医療を受けられるよう24時間体制で支援している。また、協力医療機関以外の通院等もあるがご家族様の協力を頂きながら受診を行えるよう支援している。	ほとんどの方は、協力医の月1回の訪問診療を利用している。入居前からの、かかりつけ医利用が1名いる。訪問看護師が健康管理のために毎週来ている。専門医への通院は、家族が対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護や24時間体制で利用者様の状態を伝えその都度指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院14日間での退苑と謳っているが期間内に退院ができるように情報交換を行っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様や病院と情報を交換し職員間で方針を共有している。ターミナルケアに入る前には医師、看護師、ご家族、当苑とで話し合いを行いながら取り組んでいる。	「重度化(ターミナルケア)に関する指針」の文書があり、入居時に説明をし同意を得ている。体調の変化に応じて医師や家族、職員が話し合い方針を定めている。職員は看取り研修により、「しっかり、慌てない、関係者に連絡する」等の教育を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には医療機関に連絡をし指示を仰いでいる。応急手当の内部研修も行いAEDの使い方を確認している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定防災訓練を定期的に行っている。業者さんにも依頼し消化器の使用方法などの説明や訓練も行っている。	防災時対応マニュアルがある。夜間想定を含め年2回の訓練を実施した。設備の点検も行われ、業者から消火器の使い方の訓練を受けた。備蓄品は、3日程度のレトルト食品やご飯、水、衛生用品等を用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格を尊重した対応や言葉掛けを行っている。難聴の方にはジェスチャーも交えながら対応している。	入居者の呼び方は、家族や本人と相談して決めている。教員だった入居者には先生と呼び尊厳に配慮している。行事の写真撮影に関しては、家族や本人の了解を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思うままの生活ができるように確認を行いながら自己決定ができるよう見守りながら支援している。言葉にできない方には「はい・いいえ」で決定できるよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、談話や歌、読み書き(書道)それぞれ好む事ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時ご本人様に衣類を選んでもらう様にしている。(特に女性の利用者様が多くの職員は気を使う事も多々いる。産毛剃りや整髪等要望に合わせた支援を心掛けている。)		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	後片付けなど見守りながら行っている。食事が楽しめるよう支援し、好き嫌いや禁止食材を職員が理解し情報共有を行い代替で対応している。	職員が献立を考え、近所からの差し入れ野菜等を取り入れている。嚥下状況に合わせて、刻み食やとろみ食、盛り付けに配慮している。外でバーベキューをしたり、敬老会の行事食として、寿司を食したりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿・腎臓食など、医師や看護師と相談し摂取量、水分量など一人ひとりに合わせた食事形態にし支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けを行い口腔ケアを行っている。口腔ケアが上手にできず不十分な場合は仕上げの介助を行っている。夜間は義歯洗浄のお手伝いも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録などを通して一人ひとりのサインやパターンを把握しトイレでの排泄ができるよう誘導や声掛けを行っている。	排泄チェック表や動きを見て、個別に声掛け誘導をしている。難聴の入居者には、ジェスチャーを交えながら誘導している。排便コントロールは、入居者の体調に合わせて管理している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼るのではなく、こまめな水分補給や牛乳、ヨーグルトなどの提供、体を動かす機会を設け予防に努めている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	一人ひとりの希望やタイミング、湯加減などを考慮し支援している。	週2～3回の入浴である。個々の肌に合ったシャンプーやボディソープを使用している。入浴中は、話をしたり、歌をうたったり、ゆっくり入浴できるよう支援し、入浴拒否の方には、曜日や時間帯を変更して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調やご本人様の意向に沿って休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を職員がいつでも確認できるようにしている。薬の量が増減した場合は症状の変化に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カンファレンスなどで情報交換や協議を行い一人ひとりに合った日々の家事手伝いや、衣類整理、リネン交換など見守りを行いながら支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ蔓延防止のため外出は控えているが、散歩やドライブ・買物の希望がなどに合わせできる限り支援している。	敷地内を散歩したり、山菜取りや栗拾い、柿の収穫を楽しんでいる。スーパーに買い物へ行く途中の、風景を見ながら会話が弾んでいる。コロナが落ち着いてきたの入居者と一緒に、紅葉狩りドライブを計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力・理解を頂き所持されている方もいますがほとんどの利用者様は苑で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じ支援している。また、リモートにて顔を見ながら会話を出来るよう支援している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った壁面装飾や季節の花などを取り入れながら快適に過ごしていただけるよう努めている。表示等にて場所が分かる様工夫している。	フロアの掃き出し窓からは、季節ごとの風景が楽しめ、日向ぼつこの場所になっている。畳敷の小上がりは、横になったり寛げる場所である。壁にイベントの写真やぬり絵の作品が飾ってある。入居者が集まりテレビや会話により、楽しい時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ある程度所定の位置は決まっているが談話や談笑、居室にてテレビを観たり、休まれたりと思いつきに過ごされるよう配慮している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱を招かない程度に自宅で使用されていた「なじみ」の品物をお部屋に置いて頂けるようご家族の協力をいただいている。自宅での生活の延長として心地よく過ごしていただけるよう努めている。	居室にはエアコンとクローゼットが備え付けで、全入居者がリースベッドを利用している。テレビや位牌等を持ち込んでいる方もいるが、持ち込み過ぎて不安にならないよう、配慮している。居室のドアには、大きな字で書かれた表札がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレの場所に表記を行い、居室扉には利用者様の名前を表記し、ご自分でできることが増えたり、または場所がわかるよう見守りを行いながら支援している。		